

「群馬音楽センター」の保存と活用についての要望書

「群馬音楽センターを愛する会」

浅野賢一	安達治雄	網野隆明	新井里枝	飯井雅裕	飯嶋 陽
池田俊憲	伊藤純一	井野文人	岩崎 肇	上原和彦	遠藤富美夫
大崎哲朗	大淵尚親	笠井三義	上遠野公一	兼松紘一郎	鴨志田博
北山武彦	熊倉浩靖	小曾根國雄	小西敏正	小林光義	笹澤智治
佐藤晃一	篠田義男	清水一也	須田睿一	竹内ともあき	神澤宣次
西川直子	西村章延	羽鳥文江	樋口久見子	左 知子	星 和彦
水上勝之	南 紳一	和田昇三			

他約 70 名 (アイウエオ順)

平成 22 年 3 月 24 日現在

代表 水上勝之 (高崎市浜川町 2166-3)
連絡先 住所 〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 3-3-25-606
専用携帯電話 080・2085・1373
FAX 03・5396・0738
E-mail miz@estate.ocn.ne.jp

2010年3月25日

高崎市長
松浦幸雄 殿

群馬音楽センターを愛する会

「群馬音楽センター」の保存と活用についての要望書

拝啓、時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、高崎の歴史・文化発信のシンボルである「群馬音楽センターの大切さ」を考え、長く存在することを願う場として、2008年5月10日（群馬音楽センターの設計者であるアントニン・レーモンド生誕120年の日）に設立され、今日までに20回の例会を開催し群馬音楽センターの大切さを考えてまいりました。

高崎市としての経過を踏まえて、この度高崎市長として「群馬音楽センター」について「建設当時に青年会議所理事長として、その建設や募金運動に関わってきた一人であるとともに、市長になる前から多くの演奏会や演劇を主催してきました。そしてここで多くの出会いもありました。そういう意味でも、私の原風景、心の故郷でもあります。高崎の文化、市民の街高崎のシンボルとしての大事な高崎の歴史遺産であると考えています。群馬音楽センターは、必要最低限の改修を行い、高崎公会堂的なパブリックホールとして保全し、可能な限り長く活用していくことを検討したいと思っています。」と発表されました。これは「**ときの高崎市長これを残す宣言**」として歴史に残る画期的な発言であり、会として敬意を表する次第です。

さて当会ではかねてより群馬音楽センターについて様々な角度から考え検討して参りました。群馬音楽センターは高崎の歴史・建築文化にとって、また音楽芸術に対して高崎に欠くことのできない地域資産であります。また群馬音楽センターに対するA・レーモンドの環境と調和させる考え方、建設に示された市民力は、50年経っても色褪せせず、むしろ21世紀に重要性を増しています。

しかるに、市のこれまでの広報や発表された「群馬音楽センター建物診断調査報告書」、「群馬音楽センター建物診断調査結果について」の委員会資料等を検討して参りましたが、建築学上及び建築史学上から見て、調査の方法や「調査結果について」の報告書にいくつかの疑問点があります。

そこで、本来の高崎市の歴史・文化発信のシンボルである「群馬音楽センター」として長く活用し続けることを願い以下のことについて要望いたします。

●「群馬音楽センター」建設当初の原点に戻り、高崎の文化、市民の街高崎のシンボルとして、できるならば音楽専用ホールとして長く活用していくことを目標に、改修の可能性を調査する。

なお「群馬音楽センターを愛する会」は、「群馬音楽センター」の今後について、出来る限りの協力をさせていただき所存であることを申し添えます。

敬具